

## 西脇市保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応）

受講者感想抜粋 （2021. 1. 9）

### 【市内研修参加者】（一部抜粋）

- 前回の食育・アレルギー⑤と重なるところは復習として再確認することができました。資料を基に具体的にお話をしてくださったので、分かりやすく、現場とのイメージを共有させることができました。特にアトピー性皮膚炎のひどい子がおり、その子の状況と照らし合わせて、症状や対応等、「なるほど」と思い参考になり勉強になりました。また、自分もアレルギー（鼻炎、皮膚炎、喘息）を持っています。それが子どもにも現れて、小児喘息やクループで入院したことも過去にあり、アレルギーマーチを見るとそうだなと改めて遺伝訴因を感じました。阿川先生には、コロナ対応もあり大変お忙しいと思いますがお体に気を付けて頑張ってください。有意義な研修をありがとうございました。
- アレルギーの仕組みから症状、園での対応、全て分かりやすく話をしていただき勉強になりました。園での対応を研修で学んだことやガイドラインを見ながら見直していきたいと思います。こういう研修を受けると、いつも改めて子どもの命を預かっていることの重大さを感じます。園全体で再度しっかり話し、職員全体で共通理解し、しっかりと来往できるようにしたいです。阿川先生の話はすごく分かりやすく、機会があればまた研修を受けたいと思いました。
- 様々なアレルギーのある幼児の受け入れが増加傾向にあり、毎日の配慮（特に食物アレルギー）にととても気を使っているところですが、各アレルギーに対する原因、種類、症状、対策について学ぶ機会をなかなか持てていなかったように思います。本日の先生のお話は具体的で分かりやすく、専門知識のない私でも理解できました。アレルギーの対応の仕方を生活指導票をもとに保護者と話だけでなく、アレルギーについて知ること、子ども達への支援を安心・安全に行うことができると学びました。ありがとうございました。（園長）
- 最近のアレルギーの特徴として、ピクルス、バナナ、メロン、スイカなどのアレルギーも増えてきていることを養護教諭として知っておく必要性を感じました。アレルギーを発症しやすい体質として①家族歴、既往症がある②I g E抗体を産生しやすい素因を持っていることがあげられるため、この2つがあるのでは！？と念頭に置く。初めて知った事はアレルギーマーチがあるということ。アレルギーを発症しやすいアトピー素因を持田こどもが増え続け、ひとつのアレルギーだけでなく様々なアレルギーを引き起こし、大人になっていくことが分かりました。このアレルギーに対応するために、子ども達が過ごしやすい園生活を送れるよう養護教諭として対応していく必要性を感じました。（養護教諭）
- アレルギーの種類が多様化している現代、アレルギーをもっている子も増えているので、アレルギー対応を考え、医師に相談したり指示を仰ぎながら対応していかなければならないと思いました。また、園で対応するには保育士も知識が必要なのでエピペンや喘息発作時の吸入等、しっかり学ばなければならないと感じました。子ども達の健康と生活を守るために園全体で学び、知識を共有することが大切だと思いました。

○入園児にアレルギーの話はあまり重要視しておらず、保護者から話が出たら、受診した医療機関からの指示書に従って調理員が除去食や代替食の対応をしていましたが、今年度食育・アレルギー対応の研修を受講し、アレルギー等に対する知識を改め、アレルギーのある子には調理員や栄養士だけでなく、主任と園長も同席した話し合いの場を持つことに改善しました。今回の研修では色々なアレルギーの種類や特性、対応の仕方等を教えてもらい、知識の幅が広がりました。(園長)

○子どもによって急に湿疹が現れて、何の湿疹か分からないことが以前にもあり、今回アトピー性皮膚炎は左右対称に現れると教えていただいたので判断基準が分かり良かったです。外用薬の塗布も絵で示してあり、すごく分かりやすかったです。炎症は見えないところにもあるので薬は十分な量を塗ることが大切だと聞き、今まで少量で塗っていることが多かったので、炎症を起こしているところだけでなく周りにも塗る方がいいと知れて勉強になりました。今後園で実践する機会があれば参考にします。ありがとうございました。

○アレルギーと聞くと食物アレルギーだけをどうしてもイメージしてしまうのですが、今は様々なアレルギーが存在するので、その点も子どもを預かる上でしっかりと意識していきたいです。コロナウイルスの話も交えながらの研修だったのでとても分かりやすかったです。

○アレルギーの子どもは園にもいるので対応の仕方を学べてよかったです。今回は特にアトピー性皮膚炎、気管支喘息の子への対応をより知れました。皮膚トラブルは常にありますが、特にアトピーの子の肌には左右対称に炎症が起きたり、紅斑～苔癬化までの段階があり、見極めのポイントが分かりました。園での対応では外用薬を塗るほかに、汗をこまめに拭いてあげることや、日に当たりすぎないことに気を付けたいと思いました。かゆくてかきむしる子も見たことがあったので、冷やすことも覚えておきたいです。アトピー、気管支喘息ともに予防することが園として最優先だと思うので発症を防ぐことに取り組みたいです。

○アトピーについては皮膚のケアの大切さが小さい頃からきちんとしていく必要があると改めて感じました。園での対応では薬の塗り方や日焼け止めのこと等、詳しく教えていただいたので参考にしていきたいと思います。アレルギーの特徴として、季節性のアレルギーが30代より上の人に多いのに対して、30代より下は通年性が多くなっていると知り、驚きました。

○私のクラスにも中度程度と思われる子どもがいます。薬を塗ることもありますが、量が少なかったり保湿剤が後になっていました。今日教えていただいたことを実践したいと思います。アレルギーの子が多く、保育士としてきちんとした知識をもって一人ひとりの対応をしていく必要があると感じました。今日は結義な時間を過ごせました。ありがとうございました。

○今日はアレルギー(特にアトピー性皮膚炎、気管支喘息、鼻炎)についてや園での対応を詳しく知ることができました。アトピー性皮膚炎では、保湿をすることが大切であり、ステロイドの薬と両方を持ってきた場合は①保湿剤②ステロイドの順に塗るということも知りました。気管支喘息では、園でできることが限られていますが、できる限り配慮していこうと思います。最後のテストでは、全問正解することができました。春季カタルの写真がとても印象的でした。特に年長児には気を付けていこうと思います。

○赤ちゃんは免疫を高く持って産まれているが、6ヶ月頃からは病気になりやすく、コロナにかかると0歳～3歳は重症になりやすいと聞き、ニュースでは子どもは重症になりにくいと言っているので、注意しなければいけないと思いました。マスクも2歳児までは呼吸がしにくくなるのでつけなくていいとなっているので換気や消毒等、対応できることはしっかりしていきたいです。医師、保育者、保護者との連携のもとで、保育所での生活上の留意点が分かれば個々の対応がスムーズに行えるので大切、アレルギー対応は園全体で対応するべきで担任だけだと難しい、丁寧に対応し、予防していきたいと思います。

○アトピー性皮膚炎の症状について詳しい説明や、薬について、園の対応の仕方まで、自分たちがアレルギー疾患児とかかわる上で知っておかなければならないことを理解できて良かったです。資料にない補足のお話も大切なことが多く分かりやすかったです。昔から言い伝えられていることと実際の疾患状況、対応の違いが多く発見され、新しい気付きがたくさんありました。年々様々な情報が飛び交う中で過ごしている私達保育者がしっかりと正しい知識を学び、一人ひとりの子へ対応していかなければならないことを改めて感じました。今後現場で活かしていきたいです。

○コロナ禍での残食量が増加したと聞き、食へのおもしろさや楽しさの大切さが感じられました。調理の仕方を工夫することで食欲をそえられる等、何らかの対策を取るのは大人の役目だと保育面でも感じました。住みやすい国で1位と言われているスウェーデンはアレルギー保持者が多いと聞き、コロナ禍で菌を減らすようにしているが、免疫をつけるという将来性のためにはどうなんだろうと思いました。食育、保健、衛生面のこと等、普段親にしか分からないことが知れたので良かったです。今日得た知識を保育にも活かしていきたいです。

○自分が幼い頃に喘息を持っていたので、吸入や薬の記憶はあるが、発作のサインや対応等、詳しいことは知りませんでした。現在努めている園に吸入が必要な喘息を持っている子どもはいないが、保育室の埃等、清潔を保つことがアトピー児に対しても必要なことだと改めて感じました。私もアレルギー性鼻炎を季節性で発症するので治療等聞けて良かったです。20代以下は通年性のアレルギー性鼻炎が多いことは初めて知りました。目を怪我した時に黒目と白目の境目を見ることも知らなかったので勉強になりました。

○コロナ禍で運動不足や、食欲低下、ストレスがたまる等、炎症が起こる原因が増えていることを知りました。アレルギー性鼻炎対応として、保育環境や日頃の保育で気を付けなければならぬことがたくさんあることを知り、自分自身の知識の習得や情報を集めて活かしていくことが大切だと思いました。

○アトピー性皮膚炎はかゆみのある湿疹が左右対称に現れ、乳児では顔・首・頭によく現れる。良い皮膚状態を保つためにスキンケアが大切となる。外用薬の塗布方法等、たくさん知ることができたが、ガイドラインにしっかり目を通しておきたいと思いました。喘息の強い発作時は『遊べない』『食べられない』『眠れない』のひとつでも症状があれば吸入、必要に応じて救急車の要請、医療機関を受診等の対応が必要となるので、子ども達の日々の姿、いつもと違う様子はないか等、様子をしっかりと見ておくこと、職員間や家庭との連携を取ることの重要性を学びました。

○今は昔と比べると、寄生虫や菌等の数が減り、共存することが少なくなったためにアレルギー疾患罹患立が増えているとの現状に驚きました。ある程度菌との共存も免疫機能

を高めるためにも大切で、排除しすぎても良くないことが分かりました。

○アトピー性皮膚炎の段階を追った症状を現に見ることがありとても分かりやすかったです。ただ、保護者の考え方がステロイド剤は塗りたくない為、湿潤期間が長く、全身とびひ状態になることもあり、子ども自身がとても痛々しくみえてしまいます。今回阿川先生がお話されていたようにステロイド剤はそんなに怖いものではないことを伝え、今後につなげられるようにしたいと思います。また、塗り薬は手袋をするということも徹底したいと思います。

○アトピー性皮膚炎の園児について、プール遊び、運動会の練習時は特に個別の配慮が必要だと感じ、これから気を付けながら対応していきたいと思いました。薬の特徴や使い方も丁寧に教えていただき勉強になりました。保育の現場に沿った内容の研修でこれからの保育に活かしていきたいと思います。

自分自身も幼少の頃より卵アレルギーがあり、年齢を重ねるにつれアレルギー性結膜炎になる等、まさにアレルギーマーチ通りなので自分の体験を思い返しながら話を聞くことができました。様々な対策については分かっているようで細かい部分まで把握・理解できておらず、改めて清潔にすること、こまめに保湿すること等、アレルギーの子ども達に正しく丁寧にかわり対応していかなければならないと感じました。

○アレルギー原因食材BEST3に入る「卵・乳」のアレルギー持ちの子が多く園にいるので、気を付けていこうと改めて思いました。私自身は卵や乳のアレルギーはないのですが、アトピー性皮膚炎をもっており、そこまでひどくはないけれどかゆみが出ると止まらなくなることも多く、炎症があるところに薬を塗るだけで周りにも塗るということをしていなかったため、子どもにも症状が出ていたらまずは保湿から始め、しっかりと全体に塗ろうと思いました。気管支喘息もちの子は、大人だけでなく子ども自身も吸入器の使い方をしっかりと伝え理解しておく必要があると思いました。全てを対処するのは難しいけれども栄養士として、特に食物アレルギーでの対応はしっかり対応したいと思います。(栄養士)

○コロナ禍による運動不足等で給食の残量が増えたけど、給食を作る時間を早めにし、匂いで刺激をし、残食を減らすことができたということで、試してみたいと思いました。(調理師)

○前回の内容を振りかえり、再確認ができて良かったです。こども園で見られるアレルギーは、乳児期と幼児期で異なるので、それぞれの特徴をしっかりと押さえて判断し、対応できるようにしたいです。外用薬は、少しの量で塗っていましたが、完治の為には多めの量を広範囲に塗るのが効果的なので取り組んでいきたいです。喘息発作時のポイントが、ぜん鳴、呼吸困難、陥没呼吸の3つが軽いか重いかを目安に対応方法が違うので、ガイドラインを作り、すぐに見られる状況にしておきたいです。一人ではできないことが多いので、そばにいる保育士等と協力して対応していこうと思います。(栄養士)

○アトピー素因をもっている子は、アレルギーになりやすく、乳児湿疹が顔に出ている子や、下痢腹痛をよくおこしている子は要注意だということが分かりました。ステロイドを塗る時はたっぷりの量を塗ることが大切で、炎症の部分だけでなく周りも塗るようにしていきたいです。その際に手袋もつけることも気を付けたいです。これから生活管理指導票の内容を再確認し、理解しておくようにしたいです。また、災害時のアレルギー時の対応ができていくかも再確認したいです。(栄養士)

○園でもアレルギーのある子どもが増えているし、アレルギーも色々あるのも実感しています。保護者と面談した時にI g E抗体が何かと聞かれたことがありました。この時は分かっているようで詳しく理解できていなかったのが病院で確認してもらいましたが、今回の研修を受けて、保護者にも伝えられると思いました。アトピー素因があると食物アレルギーやアトピー性皮膚炎、気管支喘息やアレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎に移行していくことが多いので肌の保湿が大切だと思いました。この研修を活かしていきたいです。(調理師)

【市外研修参加者】(一部抜粋)

○最近アレルギーの種類が増えてきたと感じています。草のアレルギーや、魚類が食べられない、野菜と限られたお肉しか食べられない子がいます。今回の内容で遺伝性があると聞き、思い当たることがありました。

○コロナの話やアレルギーの実態に合う対応についての理解と知識が深まりました。年々増えるアレルギーのある子ども達が、保護者の意識次第で変えられることもあるので、0歳児の時の担任とのかかわりが大切だと思いました。あと、アレルギーのある子への対応については、園でしっかりと対応できているものが多かったのが、継続していきたいです。コロナ禍の中研修に参加させていただきありがとうございました。ご自愛ください。最後のテスト楽しかったです。

○アレルギーについて正しい知識を備えておきたいという思いで今回の研修を受けました。アレルギーと聞くと食物アレルギーが思いつきますが、他にも色々なアレルギーがあることを知り、それに対してどのような予防策があるのか日頃から気を付けておくことは何か知っておく必要があると感じました。もし目の前で子どもがアレルギー症状を発症した時に焦らずに落ち着いて対応できるかどうかは不安な部分もありますが、日頃からガイドラインを見て予習をし、もしもの時に備えたいと思いました。保護者からの質問にもきちんと伝え、保護者支援ができるようにしていきたいです。また、子ども達にもアレルギーについて知識を伝える場があればいいと思いました。

○喘息のある子供を預かる場合は、発作時に吸入する練習をしておく、日常の生活を観察する等、今後受け入れることがあるかもしれない喘息の子どもの対応を知ることができて良かったです。阿川先生の体験談や分かりやすい例えで理解しやすく、興味深い研修ができました。座薬、点鼻薬は粘膜に対しての療法なので保育士だけで行うことは避けたい等、現場でも気を付けなければいけない等、知ることができて良かったです。(栄養士)